

平成31年4月

普及活動報告

～伏見とうがらしの生産振興に向けて～
JA京都園部黒田支店において栽培研修
会を開催 (南丹市：9日)



普及センターから管理のポイントを説明

JAから昨年の販売実績について説明があり、普及センターからは、ほ場準備から初期の栽培管理について、また、堆肥施用のポイントや定植時の留意点等、安定生産のための栽培方法について説明しました。

参加者からは、「定植後の株元の細根がかん水によって露出してしまいがどうしたらよいか」など、生産に対する具体的な質問が多く出されました。普及センターは今後も生産者のニーズに応じた支援をしていきます。

場 所 JA京都園部黒田支店
出席者数 28名

平成31年度生産者40名（上記支店管内）

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年4月

普及活動報告

～集落の現状と意見を共有～
住民アンケート結果を区総会で報告
(京丹波町：9日)



アンケート結果を住民に報告

普及センターでは、今年度、京丹波町中区の新規移住希望者を募集するため、区の情報と意見を集約した資料作成を支援することとしています。その参考とするために、去る1月に実施した区住民向けアンケートの結果を、区の総会で報告しました。集落の農業と後継者の実態や課題など現状を共有すると共に、他地域における移住者のケースなどを説明し、今後の活動について区の協力を呼びかけました。

参加住民からは、「すごい数字（データ）が出ているな」などアンケート結果に対する驚きの声や、他地域の現状に関し、もっと詳しく内容を聞きたいと要望がありました。今後は京丹波町や区の住民の皆様と、移住者募集に向けた集落情報（空き家、営農情報等）をまとめ、発信していくことにしています。

場 所 京丹波町中区公民館
出席者数 28名

世帯数及び人口

京丹波町旧和知町 1,306世帯 (3,029人)

中区 33世帯 (78人)

(2015年農林業センサス)

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年4月

普及活動報告

～ビール大麦の品質向上と契約数量達成 を目指して～ 赤かび病の防除始まる

(亀岡市：11日)



穂が出揃ったビール大麦



ヘリ防除の様子

ビール大麦の品質を確保する上で最も重要な作業の一つが赤かび病の防除で、本病は出穂後に曇雨天が続くと発生が多くなる傾向があります。今年は暖冬の影響で大麦の生育が例年に比べかなり早く、4月11日から各地でブームスプレーや無人ヘリコプターによる赤かび病防除が始まりました。これに先だって、普及センターは3月下旬から4月上旬にかけてJAとともに出穂期を確認し、防除適期（出穂15日後）を予測しました。

生産者からは「昨年と比べて生育が良いので、赤かび病が発生しないことを願っている」との声が聞かれました。今後も普及センターは、関係団体とともに品質の良いビール大麦生産に向けて支援していきます。

場 所 亀岡市河原林町、千歳町

出席者数 11名

平成31年産栽培面積 約95ha (平成30年 93ha)

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年4月

普及活動報告

～ポリウム不足の改善に向けて～

コギク「紅式部」肥料試験を開始

(亀岡市：16日)



定植作業

「紅式部」は、赤が鮮やかな京都府の育成品種で、南丹地域特産物育成協議会（以下特産協）も増産を期待されていますが、茎が細く草丈が長い特性のため、ポリウム不足になりやすいことが課題です。そこで、生産者と特産協の協力を得て、施肥量を増やす試験を行うこととなりました。

生産者からは「上手く生育して、よいものが穫れたら」と期待の声が聞かれました。普及センターは、病害虫の発生に目を配りながら、生育量や品質を調査して支援していきます。

場 所 亀岡市千代川町、河原林町
出席者数 3名

生産者8名、栽培面積30%

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年4月

普及活動報告

～温度管理の徹底を～

定植中の伏見とうがらしハウスを巡回

(京丹波町：18日)



苗の定植指導

前日にJAから苗の配付があったことから、ハウス栽培農家を巡回し、定植時から生育初期にかけての管理につき、細心の注意を払うよう呼びかけました。

このうちロックウール栽培の2戸は4月11日～15日にかけて定植済み、土耕栽培3戸については順次定植が行われていました。この時期は気温の寒暖差が大きいため、日中のハウスをこまめに開閉することや、夜間は保温に努める等、きめ細やかな温度管理を行うよう指導しました。

場 所 京丹波町丹波地区

出席者数 7名



定植苗の様子

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年4月

普及活動報告

～緑肥、微生物の力で病害に備える～ 黒大豆の黒根腐病・白絹病現地対策試験 ほを設置

(南丹市：18日)



苗立ち数を調査

黒根腐病及び白絹病の発病抑制に効果が期待される緑肥作物（カラシナ、チャガラシ）について、3月15日に播種した株の苗立ち状況調査を行いました。

今後、緑肥作物は、黒大豆の播種前には場へすき込み、緑肥作物区と慣行区での病害発生の違いなどを調査する予定です。

場 所 日吉町四ツ谷
出席者数 5名

秋田県立大学、タキイ種苗(株)、朝日工業(株)、(株)秋田今野商店及び生物資源研究センターと共同で実施。昨年度は抑制微生物資材投入のみの調査を実施

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年4月

普及活動報告

～若手農業者の輪が拡大中～ 京都丹波 農業青年クラブが定期総会を開催

(全域：22日)



真剣に議論する会員

新役員が選出され、新会長の瀧村裕司さん（京丹波町）が「新たな変化に対応し、互いに切磋琢磨するクラブにしたい」と宣言されました。

今年度、京都丹波農業青年クラブでは、他産業で活躍する同世代の経営者を招いて経営研修を実施するほか、生産技術の先進事例を学ぶために視察研修を実施する予定です。

出席した会員からは「このクラブの活動は有意義なので、知り合いの農業経営者を誘います」など、前向きな発言が目立ちました。普及センターは、青年クラブ活動や個別の経営指導を通じた農業青年の資質向上と自主的な活動を支援しています。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 16名

会員数26名（亀岡市10名、南丹市8名、京丹波町6名、京都市1名、高槻市1名）
前身の「船井農業青年クラブ」は、昭和46年2月に結成

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年4月

普及活動報告

平成31年度京都丹波就農サポート講座 開講式を開催

(全域：23日)



主催者あいさつ

開講式では、主催者のあいさつ及び来賓からの激励の後、受講生が自己紹介し、受講の動機や今後の抱負を語りました。その後の講義では、水稻栽培の基礎と気象災害対策について普及センター職員が講師をつとめました。

受講生からは「水稻の基礎を学べて良かった」「自然災害に備える知識・準備の重要性が理解出来た」との声が聞かれました。普及センターは、農林センター等と連携しながら、野菜等の栽培技術と鳥獣害対策及び管内先進農家見学や堆肥づくりの実習、農業機械の安全操作とメンテナンスなど、10月までに合計10回の講座を実施します。

場 所 園部総合庁舎
出席者数 31名



熱心に講義を受ける様子
(水稻栽培の基礎)

受講者数18名 (うち障害者就労支援事業所の指導員4名)、平均年齢37才

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年4月

普及活動報告

～農産物が映えるポイントを説明～
ふらっと美山生産者の会が研修会を開催
(南丹市：24日)



荷姿の注意点について説明

ふらっと美山生産者の会総会に併せて研修会を開催し、普及センターから「直売所でも荷姿が大切」として、袋詰めする際は適量を心掛けることや、大きさを揃えて見映えを良くすること、鮮度保持に気をつける等の注意点を説明しました。

参加者は具体例を聞くことで、荷姿にも注意しなければならないと納得していました。普及センターは引き続き、栽培面も含めて支援していきます。

場 所 京都丹波高原国定公園
 ビジターセンター
出席者数 33名

ふらっと美山生産者の会 会員数155名

京都府南丹農業改良普及センター